令和６年度天皇杯受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

８８のアイデア実現を目指して、「え～ひだ」を創るカンパニー

〇集団等の名称　えーひだカンパニー株式会社（代表　川上　義則）

〇所　　在　　地　島根県安来市

〇受　賞　理　由

・地域の沿革と概要

安来市は島根県東部に位置し、鳥取県と隣接する。南部は中国山地、北部は中海に注ぐ飯梨川・伯太川全流域が市域に含まれる。このうち比田地区は安来市の市中心部から35km離れた標高300～450ｍほどの盆地に位置し、東比田地区の「東比田振興協議会」、西比田地区の自治会組織が地域活動の主体となり、地域課題に関する話し合いや課題解決に向けた具体的な取組が行われていた。

・むらづくり組織の概要

平成14年に浮上した地元の小学校の統廃合の話を契機に今後の取組を考える中で、拠点施設「比田いきいき交流館」を整備。地域の特産品づくりや販売に取り組み一定の成果はあったものの、人口減少や高齢化には歯止めがかからず、「このままでは比田がなくなる」との危機感から地域ビジョンの策定に取り組んだ。住民１人１人が比田の将来ビジョンを共有することが重要なことから全世帯の中学生以上にアンケートを実施するとともに、世代ごとのワークショップを実施。寄せられた1,469のアイデアから88のアイデアを採用し、平成28年に「比田地域ビジョン」が完成した。ビジョンの実現に向けた取組を進める組織として任意組織「えーひだカンパニー」を設立し、平成29年に株式会社化した。

・むらづくりの取組概要

（１）農業生産面

①　「比田米プロジェクト部」では高齢化等で作付けが困難となった農地を中心に営農をしている。また、ドローンによる農薬散布、リモコン除草機による除草作業などの作業受託は延べ194haで行い、高齢農家の営農を支えている。

②　安来節で有名などじょうも近年生産が減少しており、排水不良の水田を活用して令和５年からどじょう養殖を開始した。

③　米価下落の不安から「比田米」ブランド化、日本酒・焼酎・米ビールなどの加工品を商品化し、売上高は増加している。

（２）生活・環境整備面

①　アンケートで多かった通勤・通学・通院・買い物の不便さ解消の地域ビジョン実現のため、「生活環境部」が「えーひだ交通運営協議会」と共同でデマンド交通を運営し、令和５年度には延べ1,045人が利用している。

②　買い物環境の悪化により、令和５年から高齢者の買い物支援、見守り活動を兼ねた移動販売車「ひだまり号」を運行し、81世帯が利用している。

③　小学校との協働事業として子供たちが出店や商品開発、動画制作などに直接関わることで、自信や意欲、比田への郷土愛の醸成につながっている。

④　指定管理を行う温泉施設「湯田山荘」では、令和６年１月から２月まで冬期の除雪作業が困難な高齢者の冬期一時居住用施設として試行し、６名が滞在した。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、農産物栽培、特産のどじょう養殖による地域の農用地の維持・活用、農作業受託により個別農家の営農面を支えており、さらに、地域の農産物を活用した多彩な商品開発、え～ひだ市場（農産物直売所＋カフェ）の設置・運営を行うとともに、買い物弱者対策としての移動販売の実施や子育てサポート、温泉施設を活用した観光振興や高齢者生活支援などにより生活面の安定・生活水準の向上に貢献しているなど、幅広い取組を行っていることは特筆に値する。公的資金、公的支援を期待した従来型の地域運営組織と異なり、責任を明確にして持続できる組織形態として株式会社を選択し、「自治機能」と「生産機能」を車の両輪として事業を展開している本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。